

平成18年  
6月号

250円

# やすらぎ

人と人をつなぐ月刊総合誌



怒りではなく、支えあいを  
丸いクッキー

子供とお父さん

年老いた人々へのメッセージ

父親のいない家庭

「父の日」と父の事を考える

「両親は人間が第一に敬意を示さなければならぬ神聖な存在です。両親を尊重しないのであれば、それは全能の神に背いていることになります。両親を大切に扱わない人々はいつの日か他の人々からひどい扱いを受ける目にあうでしょう。」p14



## 編集部より

私の父は中学の教師をしていました。私が子供の頃は土曜日も半日授業がある時代でしたし、休日も部活動の付き添いや諸々の仕事のため、父が丸一日家で過ごすということはめったにありませんでした。ずいぶん後になって分かったことですが、母親にしてみれば、休みがほとんどなく家族で遠出も出来なかったことが少し不満だったようです。しかし私は、父に連れられて勤務先の学校やその近くの遊び場に連れて行ってもらった楽しい思い出が多く、相手にされなくて寂しかったという記憶がまったくありません。もう一つ私の父親像には、日本の文化を家庭内で実践し伝えていこうとしていた姿があります。お正月を迎えるための餅つき、大変な作業ですが、周囲にこの年中行事を行う家庭が減っていく中で、臼と杵を使っの伝統的な餅つきを毎年欠かさない我が家のことが子供心に誇らしく、ワクワクさせられたものでした。

父親は一般的に家計の担い手として家の外で過ごす時間が長く、家族との時間が少なくなりがちです。また妊娠・出産という経験がないせいか、母親と比べると子供の世話に意識があまり向かないように思えます。日々の家事や育児を通じて、また母性愛を注いで子供との絆を強めていく母親と異なり、父親はどのようにして子供との関係を築き上げ、父親としての役割を果たしていくのでしょうか。

我が夫は子供をよく可愛がるのですが、休日ともなるとゴロゴロ過ごすことが多く、見ているとつい歯がゆくて「子供と何かしたら？」としつこく言ってしまいます。父に対するひいき目かもしれませんが、父は私たちを可愛がる上に、忙しい中でも私たち子供にきちんと向き合ってくれていました。改めて感謝を伝えるのは気恥ずかしいし、父の日にプレゼントでも贈りましょうか・・・父親業が始まってまだ日の浅い夫にも、今後を期待しつつ日ごろのねぎらいも込めて何か贈り物をしようと思います



編集部より	2
怒りではなく、支えあいを	3
祈りのある毎日へ	5
丸いクッキー	5
タワドゥ（謙虚さ）	6
預言者ムハンマドが教えた予防医学	9
子供とお父さん	12
年老いた人々へのメッセージ	15
50の手習い	16
父親のいない家庭	18
「父の日」と父の事を考える	20
今月のインタビュー	22
汝自身を知れ	23
少し、キュードスピーチのことを	27





周囲がまだ薄明かりに包まれている中、周りの人々に神のメッセージを伝える役割があなたに与えられたのだ。周囲の人たちがその価値を知っていなくても、その事実は天地が証人となったのだ。決して、道を知らずにいる人たちの状態を非難してはいけない。あなたが行なった奉仕を人々が認めなかったとしても、神はご存知であるのだから。

あなたは自分に適した、やるべきことを行った。今、あなたの周囲はまさに花園のようである……。あなたの周囲に、成長していくこれほど多くのバラがあるのに、少々のとげに苦情を言うのは何故だろう。この不穏さ、成長途上の欠点や不足点へのこの反応は……？

神に結び付けられた心にとって、来世への道におけるこの奉仕の報奨をこの世で求めることは、成熟とは程遠い振舞いではないだろうか。この世界も、中に含まれるものも、はかない。来世は、想像を絶するようなその美しさと偉大さとともに、限りのない存在ではないだろうか。そう、真実の道における努力の対価を求めることをやめなさい。向こうには、1000 個の現世ほどの価値がある。

人々のあなたに対する好意(たとえ正当な根拠のあるものであっても)を、偉大さのしるしと見なし、その評価が与える地位に自らを結び付けてはいけない。まして、他人を自分より劣ると見なすというような成熟していない行動には、絶対陥ってはいけない。アッラーの御前における価値、尊さは、魂の純粋さ、心の偉大さによる。物質に価値を与え、肉や骨の下でひしゃげてしまうことはどれほどの不幸だろう。

目上の人への敬意は、基盤として存在するとしても、それを追及してはいけない。他人のあなたに対する敬意は、それが望まれたり期待されたりすることなくひとりでに生じたものであるなら害はないが、それが求められ、追求されるようになれば、行きつくことのない愛着となり、その人を貧窮や困難さへと陥れるものとなる。

人々が価値を与え敬意を示すことに対し依存し、安心してはいけない。こういった好意は、天空の向こうの「好ましいものとしての評価」の一つの反射であり、喜ばれるべきものと見なされるとはいえ、それを求めるべきものではない。人を一瞬間の間喜ばせたとしても、長い時間痛みを与えるものとなる。このような一過性の好意に感わされ、その心を暗くしてはならない。

この奉仕が大きくなるに従い、敵も増えていっているように、あなたも、あなたの周囲の人たちによって試されるかもしれない、と考えたことはあるだろうか。考えなさい。神の手によって、それぞれ試みの要素として利用された親友たちに対し、人間性を持って振舞いなさい。

人々に対して行った奉仕、身近な人たちのために施した善を、彼らに見せ付け、周囲の人たちがあなたに對しうんざりするようなことがあってはいけない。忘れずにいなさい、あなたが行ったのはそれぞれが義務であり、あなたはそれを命じられているのであり、責任を負っているのだ。

あなたが読んだ本、あなたが考え、分析した主題、そしてアツラーの道において息を切らして奮闘したこと、これらに比例して謙虚さが増し、「与えられた困難さを恵みと見なす」という段階に到ることができていないなら、あらゆる動きにおいて自己中心さという爪に挟まれることを思い、警えなさい。

どのようなことがあろうと、私に、あなたが行った奉仕の偉大さや払った犠牲について話題にしてはいけない。もしあなたが、あなたの成果を社会の財産として、また友人たちの努力に対し与えられた神の恵みとして見なすことができるのであれば、お願いしよう、私にそれを伝えてほしい。あなたの心地よい言葉が、私の心を整えるように。

「私の知識、私の誇り、私の名誉」と言い、我欲の歌によって敵を喜ばせ、親友を遠ざけてはならない。あなたに長所があるのなら、向こうの世界のために花を咲かせるか、穂を実らせなさい。あなたの人生に伝説があるのなら、天使による永遠の書として残しなさい。\*



---

\* この文章が“Pearls of Wisdom”よりの訳です。



聖なる館、カアバの主

聖なる月々の主

マスジドハラーム（マッカの聖なるモスク）の主

聖なる街（マッカ）の主

カアバの各角と立ち所の主

マシュアルハラーム（巡礼の時参るある山）の主

（マッカの）聖なる土地とその他の土地の主

光と闇の主

平安と安全の主

荣誉と博愛の主

あなたは完全無欠なお方、あなたに栄光あれ、あなたの他に真の神は存在しません。

私達を地獄の炎からお助け下さい。\*



## 丸いクッキー

### 材料：

バター 100グラム

砂糖 40グラム

牛乳 20グラム

小麦粉 100グラム

ココア 5グラム

### 作り方：

1. バターを柔らかくし、砂糖を入れてクリーム状にする
2. 牛乳を入れる
3. 小麦粉・ココアを入れて混ぜる。絞れる固さに
4. プレートに絞って並べる 180℃ 10～15分

---

\*偉大なる鎖帷子（ジャウシャヌカビール）には、祈願（きがん）、唱念、救いを望むことが記されています。それは、真の主アッラーの多くの御名を知らしめ、それらの御名と共にアッラーへ祈願し、近づく方法を示す大変貴重な意味深い書です。鎖帷子は戦いの時、身を攻撃から守るために着ます。人間の靈魂に授けられた善美を守るためには、偉大なる鎖帷子のような精神的鎧が必要です。本来、偉大なる鎖帷子（ジャウシャヌカビール）が精神的世界のみではなく、物理的世界においても守りとなると伝えられています。



## タワドゥ(謙虚さ)\*

タワドゥ(謙虚さ、慎み深さ)は横柄さや高慢さ、傲慢さの反対のことです。また、アッラーの前における自分の本当の位置というものをわかっていることや、その認識がアッラーと人々に対する自分の行いを定めることとも解釈されます。もし自分自身を平凡な被創造物の一部、すなわち、扉の敷居や、床や敷石に広げられたマット、小川の中の小石、野原の中のもみ殻として捉えたら、そして、もしムハンマド・ルトウフィ・エッフエンディがしたように心から「他の人は皆良いのに私は悪い。他の人は皆小麦なのに私はもみ殻だ。」と認めることができたなら、天国の住人がその人の頭に口づけるでしょう。

預言者(彼に平安と祝福あれ)の伝承で「謙虚な人は皆、アッラーの賛美を受ける。高慢な人は皆、アッラーが屈辱を与えられる。」とされています。したがって、人の本当の偉大さは自分が偉大であるように振る舞うことに反比例し、本当の小ささは自分が小さい者であるように振る舞うことに反比例するのです。

タワドゥは様々な方法で定義されています。美德はすべて本質的に自分自身から生じているものではないと考えること、他人を謙虚に丁重に扱うこと、(アッラーから特別な扱いを受けるという栄誉を授けられていない限り)自分自身を人類の中で最悪の者だと考えること、そして、どんな自我の動きにも用心深くあり、それをすぐに抑えることです。それぞれの定義がタワドゥの要素を表していますが、最後の一つはアッラーご自身によって誠実な者とされ、アッラーに近い人々に関係のあるものです。

教友の一人はカリフ・ウマル(彼にアッラーのお喜びがありますように)が水差しに入った水を肩に担いで運ばれているのを見ました。彼は尋ねました。「何をなさっているのですか、アッラーの使徒様のカリフ(後継者)様？」アッラーに最も近い人の一人、ウマルは答えました。「外国の外交使節が来たのですが、私は心の中にうぬぼれを感じたので、それを抑えたかったのです。」ウマルはかつて小麦粉を背中に担いでいました。説教壇の上で話している時に彼は自分自身を責め、黙ってしまい、人々が彼の行動について質問し批判したこともありました。

アブー・フライラはメディーナの副知事だった時に木材を運びました。ザイド・イブン・サービトは、メディーナの主席裁判官だった時、イブン・アッパースの手に口づけし、イブン・アッパースはクルアーンの解釈者としてまたウンマ(共同体)の学者として高名だったのですが、ザイドが馬に乗るのを手伝いました。預言者(彼に平安と祝福あれ)の孫のハサンは、パン屑を食べている子供たちと一緒に座り一緒に食べました。アブー・ダッルがピラール・アル＝ハバシを傷つけてしまった時には、彼の許しを得るため、頭を地面につけて言いました。「ピラールの祝福された足がこの罪深い頭を踏み付けることがなければ、この頭は地面から離れることはありません。」これらの出来事やこのようなたくさんの出来事はすべてタワドゥの実例なのです。

\* この文章が“Key Concepts in the Practice of Sufism”よりの訳です。

全能のアッラーと彼の使徒はどちらもタワドゥについてとても強調されたので、そのことを知っている者はしもべたることがタワドゥからなることに疑いを抱きません。クルアーンの『慈悲深き御方のしもべたちは、謙虚に地上を歩く者、また無知の徒(多神教徒)が話しかけても「平安あれ。」と(挨拶して)言う者である。(識別章 25:63)』という節はタワドゥを賞賛し、『信者に対しては謙虚である(食卓章 5:54)』や『お互いの間では優しく親切である。あなたは、かれらがラクウシザンダして、アッラーからの恩恵と御満悦を求めるのを見よう。(勝利章 48:29)』というアッラーのお言葉は、行いに映された、深くしみ込んだタワドゥに対する賞賛の表現なのです。

タワドゥに関して、預言者(彼に平安と祝福あれ)は次のように述べられています。「アッラーは私に、あなた方は謙虚でなければならず、誰も他人に対して自慢してはいけなとおっしゃられた。地獄の火が触れない人のことを教えよう。地獄の火はアッラーに近しく人々に優しく、温和で仲良くなり易い人には触れないのである。アッラーは謙虚な人を賛美される。その人は人々の目から見たら本当に偉大であるのに、自分のことを小さな者だと捉える。おおアッラー、私に自分を小さく思わせてください。」

預言者(彼に平安と祝福あれ)は人々の中で最も謙虚な者として生きられました。彼は子供たちが集まって遊んでいるところで足を止め彼らに挨拶されました。誰かが彼の手を取って彼をどこかに連れて行こうとしたときには、彼は決して逆りませんでした。妻たちの家事の手伝いもされました。人々が働いている時には彼も働かれました。自分の靴や服は自分で繕われ、羊にミルクを与え、動物に餌を与えられました。彼は召使と一緒にテーブルにつかれました。彼はいつも貧しい人々を温かく迎え、未亡人や孤児の面倒をみて、病人を見舞い、葬式の行列に加わられ、奴隷の呼びかけにも応えられました。

アッラーの使徒(彼に平安と祝福あれ)をはじめ、カリフ・ウマルやウマイヤド・カリフ・ウマル・イブン・アブドゥルアジズ、数え切れないほどの敬虔な人々、清く素晴らしい学者たち、そしてアッラーに近しくあるという栄光を与えられた人々まで、アッラーの愛されたしもべたち。彼らは、偉大であることのしるしは謙虚さと慎み深さであり、小ささのしるしは横柄さと虚栄心だと考えていました。この理解に基づいて、彼らはどうしたら素晴らしい人になれるのかを人々に示そうとしてきたのです。

本当のタワドゥは、アッラーの無限の偉大さの前における自分の価値の限界というものを知ること、そしてこれを理解したことを持つ可能性を、自分の性質に深く染み込ませ本質的部分とまですることを意味します。これを成し遂げた人々は、謙虚であり他人との関係でもバランスがとれています。全能のアッラーの前に自分は無力であると気付いた人々は、宗教的生活においても人々との関係においてもバランスがとれています。イスラームという啓示された真実に対して何の異議もなく、人間の理性に対し与えられた規律についての批判もせず、彼らはイスラームの戒律に従います。彼らはクルアーンと預言者(彼に平安と祝福あれ)の真正の伝承にあることが真実だと確信しているからです。

もしこれら二つと人間の理性もしくは合理的科学的事実が明らかに矛盾するようなことがあったら、彼らは問題となっている事柄の真実を探索するでしょう。それゆえ、謙虚さや慎み深さもない人々が、理性や合理性を前提としたことと、啓示され語り継がれたイスラームの原理との間に明らかな矛盾があるときに、理性や合理的なことが正しいはずだと主張するのは無意味なことなのです。推理や類推に基づく判断は啓示された原理よりも優先されるべきだとい

う彼らの主張も誤りです。預言者(彼に平安と祝福あれ)がとられなかった方法によって起こる不思議なことや、彼がとられなかった方法によって感じられる精神的な喜びは、アッラーが人々を破滅へと導かれる道であり、そのような努力における「成功」は罪へとつながっているのです。

タワドゥを達成した人々は、預言者が言われたことや行われたことの真実性を完全に確信しています。彼らはそれを疑うことは決してなく、それを自分の人生で実践しようとするのです。もし<sup>こぼ</sup>い謬や偉業の達成など他のことの方が美しく見えたり正しく思えたりしたら、彼らは自分自身を、啓示された真実とその表現という比類なく超越するものを見分けることが出来なかったと責めるでしょう。そして次のように言うのです。

多くの人が欠陥のない言葉に誤りを見出す。

しかし、誤りは彼らの不完全な理解にあるのだ。

クルアーンとスンナに反するような方法では来世において成功することはできないということを、彼らは確信しています。彼らはアッラーのしもべであることに最大の力の源を見出します。実際には、アッラーを崇拝する者は決して他のものをあがめることはなく、他のものに仕える者は真のアッラーのしもべではないのです。ベディウヅマンの次の言葉は何と適切なものでしょうか。

アッラー以外の何をも何者をも、崇拝の対象やしもべとなることに値するほどにあなたよりも優れていると思っ  
てはいけません。自分が他人よりも優れていると思うような方法で、自分に自信を持つてはいけません。被創造物は崇  
拝される対象であることから程遠いという点において皆同等であり、創造されたという点においても皆同等であるの  
です。

真の意味で謙虚な人々は、自分のしたことや努力を自分の成果だと考えることはなく、アッラーの道での成功  
や努力が自分たちを他の人々よりも優れたものにするとも考えません。彼らは他の人々が自分のことをどう考  
えるかには興味がなく、アッラーの道での奉仕には見返りを求めません。自分が他の人々から愛されることは自分の誠  
実さに対するテストであると考え、自分自身について他人に自慢するようなことでアッラーのお恵みを利用するよう  
なことはしないのです。

つまり、フルク(良い性質)やアッラーの性質(寛大であること、慈悲深いこと、助けになること、許すことなど)を  
持つことへの入口として、タワドゥもこれも創造主と被創造物へと近づく手段の大切な第一歩目なのです。バラは地面  
に育ちます。人類は天国にではなく地面の上に創られました。信仰する者はアッラーの前にひれ伏した時、アッラーに  
最も近づくことができます。クルアーンの預言者の昇天についての話の中では、彼の謙虚さと最高の慎み深さのしるし  
として、彼はアッラーのしもべとして呼ばれているのです。







## 預言者ムハンマドが教えた予防医学\*

### 3. 犬に噛まれた時

イマーム・ムスリムは「サヒーフ」で次のように伝えている。「犬が万が一あなた方の食器をなめた場合、それを清め方は、7回洗うことである。その一回めは、土で洗うことである」<sup>†</sup>

この時代、今日我々が殺菌のために使っているような物質は存在しなかった。そのため預言者ムハンマドは土を勧められていたのである。後になって、科学の発達により水と同様土にも殺菌効果があることが判明した。土にはテトラリトやテトラスキンといった物質が含まれており、これはある種の菌に対しての殺菌の際に使われている物質である。つまり、預言者ムハンマドは、土で洗うことを奨励することによって、傷がまず最初に消毒されなければならないことを命じられているのである。

その他にも、ハディースには注意を引く点がいくつかある。犬に存在する一部の病気は、人間の体においても発生することがある。このことは、今日まだ新しいものとみなすことのできる事実である。

二つめとして、犬の糞などは人間の健康に害を与え得るものである。唾液も同様である。そして、ある段階以降は、それらによって起こる病気を防ぐことが不可能になる。そのために、殺菌が大切なのである。

三つめとして、まず土で洗うという命令の、注意を引く別の側面は、その土が、消毒作用を持つこと、そしてさらに、それによって6回、別の伝承によれば7回、それを洗うとされている点である。このことは、ドイツとイギリスで雑誌に掲載され、預言者ムハンマドの言葉の正しさが彼らによっても認められたのである。

預言者ムハンマドは犬に関して非常に注意深く振る舞われた。さらには、一度は犬を皆殺すことを命じられたこともあった。しかし、この命令は後に停止された。その際、預言者ムハンマドはこのように言われている。「もし彼らがそれ自体一つの共同体でなければ、犬を殺すことを命じていたのだが」<sup>‡</sup>

この意味は次のとおりである。もし犬が、それ自体生態系のバランスに関係ある構成要素でなかったら、そして、被創造物としての法則からその存在は必要とされていなかったら、犬の屠殺処分を命じていただろう。なぜなら犬は雑菌の温床であるからである。

このことに関しては、預言者ムハンマドがこういう点に言及していることも一つの奇跡である。なぜなら、

\* この文章は “Prophet Muhammad: Aspects of His Life・1” よりの訳です。

† Muslim, Taharah 91

‡ Bukhari, Bad'u l-Khalk 17; Muslim, Taharah 93

今日まだ新しく知られ始めた自然界の秩序や生態系のバランスという考えが当時すでに、犬を殺さないという判断の元になっているからである。我々は1400年も経ってようやく、クジラや象、サイといった種が絶滅しないように、それによって生態系のバランスが崩れないように、といったことを言い始めたばかりなのだ。しかし預言者は、当時からこのことを指摘されていたのである。

アッラーはこの世を創造され、その構成要因の間にバランスを作られた。「かれは天を高く掲げ、はかりを設けられた。あなた方が量りを不正に用いないためである」(慈悲あまねく御方章55/7-8)この節は、これを警告しているのである。

預言者は調和に重きを置く方であり、もちろんアッラーが造られた調和を守られた。そのため犬の処分を見送られたのである。ほんの教語の文の中にも、我々が各確認できるこれだけの奇跡が含まれているのだ。おそらくは将来的にも、この同じ文から多くの事実が見つかるであろう。この言葉が語られた時代を考えると、一人の人間が一生考え抜いてようやくこの言葉のみを生み出したとしても、その人間は天才と呼ばれるのにふさわしい。しかし預言者ムハンマドは、これと同じような言葉を他に何千も語られているのである。

完全な自信を持ってこのことを言いたい。事件や出来事は全て、彼らの言葉でもって、預言者ムハンマドを評価し「あなたはアッラーの預言者であり、あなたの言うことは正しい」と言っているのだ。学問の発達に従って、いつか、全ての人が同じことを言うだろう。今日、学問はスパイのように、この世に存在する物の中で眠っている。預言者ムハンマドが語られたこと、そして聖クルアーンで述べられていることが研究され、明らかになるにしたがって、それらは目覚め、預言者ムハンマドの正しさを深く感じ、それをこの世に伝えようとしているのである。

#### 4. 食事の前後に手を洗うこと

ティリミージーとアブー・ダーウッドの伝えるハディースで、預言者ムハンマドは次のように語られている。「食事が祝福された物であるためには、食事の前後に手を洗うことである」<sup>\*</sup>

食事における祝福、清潔さ、きれいさを求めるのであれば、そしてその食事があなた方に豊かさをもたらすためには、食事の前後に、小浄(礼拝する前に体の一部分を水で清めること)する時のように手を洗いなさい。

預言者ムハンマドは、これによって、清潔のための規則、基本を教えられているのである。そうでなければ我々は自分の頭でこれを知ることはなかったであろう。しかも当時の人々は、つめの間に何百万個もの細菌が存在することを全く知る由もなかったのである。何も当時の人間でなくても、現在においてもこの事実の科学的な面を知っている人はどれほどいるだろうか？

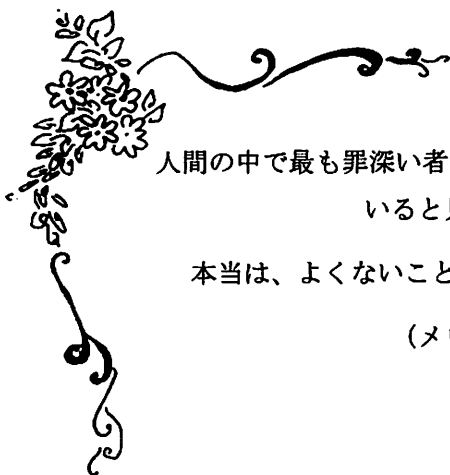
---

\* Abu Dawud, At'imah 11; Tirmidhi, At'imah 39; Ibn Hanbal, Musnad 5/441

さらに、清潔を守るために、眠りから覚めてすぐの手を食器に入れてはいけないということ、まず手をよく洗わなければいけない。なぜなら眠っている間、人は自分の手がどこを触ったか知ることができないからということ。預言者ムハンマドは教えられ<sup>\*</sup>、特に手における清潔さに重きを置かれている。

医師たちは、このことを最近やっと知り、教え始めたのである。人間は寝ている間に手をあちこち動かし、気がつかないうちに雑菌をつけている。その後、洗わないままでそれを口に入れば、どういうことになるかは言うまでもない。

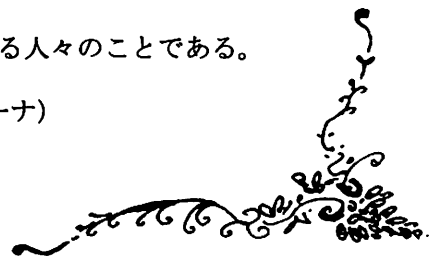
当時は、顕微鏡も X 線も実験室もなかった。だから、預言者ムハンマドが人間の手を汚染する細菌について知りえたのは、もちろんこれらのためではない。その代わり、そこに一つの事実があるのである。それこそが、このお方に全てのことを教えた方の存在である。預言者ムハンマドが知ったことは、全てアッラーは知らされたことなのである。預言者ムハンマドはそれをウンマに教え、説かれたのである。だから、その語られたことにこじつけや過ち、偽りを見つけることは不可能なのである。



人間の中で最も罪深い者は、自分自身をよい仕事をして  
いると見せかけて、

本当は、よくないことをする人々のことである。

(メヴラーナ)



---

<sup>\*</sup> Muslim, Taharah 87; Abu Dawud, Taharah 49; Tirmidhi, Taharah 19



### 親の特に父親の権力

家庭内における両親が自分の子供たちにまったく睨みがきかないというようなことは非常に大きな家庭問題である。中和を保つ権力者がいない場合、その家庭はいつ崩壊してもおかしくない状態に陥る。子供たちが叱ってくれる人がいないと自分たちの判断力だけで、なかなか正しい道へ辿り着けないのは事実である。

アッラーはクルアーンにおいて、次のように仰られている。「男は女の擁護者（家長）である。それはアッラーが、一方を他よりも強くなされ、かれらが自分の財産から（扶養するため）、経費を出すためである。それで貞節な女は従順に、アッラーの守護の下に（夫の）不在中を守る。」（婦人章 4:34）

男の人には家庭内の中和を作り上げる責任がある。ほとんどの場合、第一責任者ともいえる。実は子供たちにとってこういった責任者が必要である。家庭で責任感のある親を見て育った子供は社会に出ても無責任な人にはならない。逆に家に無責任な両親がいて、両親二人からもいい加減な扱いを受ける子供はどうしていいのか、親のどの言葉を信じるべきか分からなくなる。

もう一つ、子供が悪いことをしてしまって父親に叱られた時、母親に抱いてもらえるような環境を作らなければならない。これによって子供は良いと悪いの区別が分かるようになり、寂しい思いをせずに育つのである。父親にも母親にもやさしくされなくて、叱られてばかりいる子供はどちらの言うことも聞かなくなる。

何よりも家庭を直接アッラーに結ぶ必要がある。アッラーと結ばれて、父親がアッラーのハリーフ（代表者）になっている家庭では大きな問題が起きない。

### 子供と子供の間で公正を保つこと

複数の子供を持つ親は子供に対して他の兄弟より特別扱いすることを原則的に絶対にしてはいけない。このことで、小さなミスを起こすとそのことによって子供に対する親としての影響力がなくなりかねない。預言者（彼に平安がありますよう）は公正になることで次のように仰った。

ある日ヌアマン・ビン・バシールの父バシール（親子ともにムスリムでバドルの戦いに参加していた）が預言者を訪れこう言った：“他にも子供がいるが、ヌアマンは違う。もし、許して下されば自分の財産の一部をヌアマンにやりたい。” 預言者は“他の子供にもそれと同じ分やったか。”と逆に聞かれた。“いいえ”とバシールが答えた。預言者（彼に平安がありますよう）は今度その場にいた皆に向かって次のように仰った。“アッラーを恐れて、子供には公正に接しなさい。”その後、バシールに向かってこう仰った“あなたは自分の子供全員から同じだけ尊敬されたいと思うのか。”バシールは“はい、されたい”と答えると“それなら、そんなことをしないように（ヌアマンだけに特別に財産をやらないように）。”と仰った。

つまり一人だけではなくて、全ての子供の面倒を同じようにみなくてはならない。一人だけを特別に可愛がって、プレゼントをあげたりすると他の子供からは尊敬されなくなる。

預言者はこのように家庭で起こり得る問題に対して根本的な解決策を出されている。同じ家庭内で一人の子供を特別に扱うとその子供は他の子供に羨ましがられ、子供同士が競争によって互いを嫌うようになる。クルアーンの中でもそのことは重視されている。

ある日ユースフは夢の中で全ての星や月と太陽が自分に向かって礼拝をしているのを見た。この喜ばしい夢を父に打ち明けると父は“息子よ、あなたの夢を兄たちに話してはならない。(ユースフ章 12:5)”父ヤアコーブはユースフが預言者になることに気付いて、彼を兄弟たちから守るためにそのことを兄弟たちに話さないように言った。しかし、ヤアコーブが心配したことが起きた。兄弟たちはユースフが預言者であることに気付き、彼を死なせるために井戸の底に投げ込んだ。この出来事は、嫉妬でどんなに恐ろしいことが起こり得るかを我々に教えてくれる。

一人の子供をより愛することによって兄弟間で嫉妬が起こるとともに、他の子供が親を嫌うようになる。小さなことでも、子供の脳の中に書き込まれて何かあったときにそれを思い出す。そのために子供と子供の間でいつも公正を保たなくてはならない。その責任は親にある。

#### 親として子供への責任

1-しつけの基準を作ること：子供を完璧に育てるために、しつけの基準をきちんと決める必要がある。子供は育った環境や時代によって考え方が形を取り、ある意味その時代の子供になる。子供にとって最初の環境は家庭である。その次は学校、学校の次はその友達である。最後に子供が日常的に出入りする店などのことも環境として考えられる。もし、子供が適切な環境を与えられなかったらどこかで変なウイルスに感染する恐れも否定できない。基礎がきちんと出来ていても環境がきちんとしていないと子供がその環境によって悪影響を受けかねない。なので、親として家庭のみならず子供に適切な環境を与える責任がある。

2-ハラーム（神に禁じられていることや食べ物、ハラールの反対）を食べさせない：子供に母体から生まれる前からハラールの物以外与えてはならない。絶対に忘れてはならないのは親として油断してしまったらその反響を子供に見ることが多いということである。もちろん、子供にもその母親にもきちんと働いて汗流して稼いだお金でご飯を食べさせる責任はまずその家の父親にある。

3-悪い視線から子供を守る：生まれてから子供の食事や育てる環境に気を遣うのと同じで、子供を悪い視線からも守るべきである。きれいな考え方を持たない人たちに会わせるのも、例え言葉が話せない年齢だとしても子供に悪影響を与える。これらは親として果たすべき責任で個々人として十分注意を払えば社会全体が良くなっていく。

4-最初の言葉：ハディース（預言者のお言葉）では“子供が最初に言う言葉は‘ラーイラーハイッラッラー（アッラーが唯一なる神である）’となるべき。”\*と仰っている。

子供がまだ2, 3歳の頃に自然に口から出る最初の言葉は両親を指す“ママ、パパ”であるが、それを“アッラー”にするべきである。なぜなら、アッラーが最初でも最後でも永遠に存在するからである。アッラーへの愛を基礎に他を組立てる。アッラーを理解して愛するようになれば、国や民族への愛も理解できる。子供の年齢に合わせて教育を行うべきである。小学生を相手に行う家庭内教育と高校生への教育

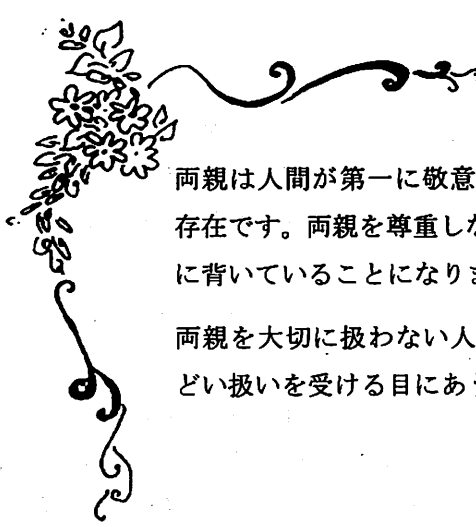
法はもちろん異なる。ある家庭において、アッラーへの愛が十分存在し、十分アッラーのことが話し合われていると子供が自然にそこから学ぶのである。その家庭でアッラーを一刻も忘れないで、きちんと礼拝も行っていると子供が最初に言う言葉も自然に“アッラー”になるのである。そんな家庭においては全てが順調なのである。

5-愛情のバランス：夫婦に子供が出来たら、その子を授けてくれたのはアッラーであることを一瞬も忘れないことと両親がその子へ持つ愛情は絶対にアッラーへの愛情を超えないように注意するべきである。

子供を愛しすぎることはある意味シルク（神に何らかの協同者（パートナー）を認めるという意味）でこれは子供にとっても害を与える場合がある。例え自分自身よりも大切に、何よりも可愛い子供であっても絶対的なアッラーへの愛がそれ以上であるべきである。子供への愛情を考えると忘れてはいけないのは：

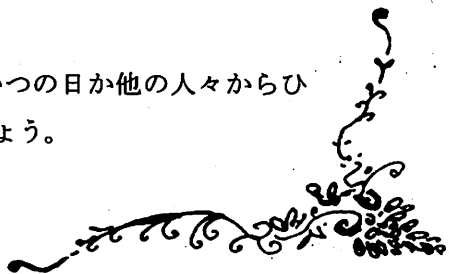
1-心から一番愛さなくてはならないのはアッラーである。

2-絶対に忘れてはいけないもう一つの点は、子供はアッラーから預かっているだけということ。親が自然に持つ子への愛情は子供の面倒を見ている代わりにアッラーから与えられる贈り物のようである。



両親は人間が第一に敬意を示さなければならない神聖な存在です。両親を尊重しないのであれば、それは全能の神に背いていることになります。

両親を大切に扱わない人々はいつの日か他の人々からひどい扱いを受ける目にあうでしょう。





## 年老いた人々へのメッセージ

仁慈あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

「カーフ・ハー・ヤー・アイン・サード。(これは) あなたの主が、しもべのザカリーヤーに御慈悲を与えたことの記述である。かれが密かに請願して、主に折った時を思え。かれは言った。「主よ、わたしの骨は本当に弱まり、また頭の髪は灰色に輝きます。だが主よ、わたしはあなたに御祈りして、御恵みを与えられないことはありません」(マルヤム章 19:1-4)

### 一番目の望み

円熟なされた親愛なるご老齢の兄弟達、ご婦人達よ、

私もあなた方と同じに年老いている。老齢に達したこのごろ、時折見出す望みとその望みから得られる慰安の光をあなた方と分かちあいたいと言う希望のもとに、頭に浮かんできたことをいくつか記そう。私が見た光と出遭った希望の扉は完璧ではない混乱した私の能力に応じて見出され、開かれている。インシャアッラーあなた方の純粋な力が、私が見た光を輝かせ、私が見出した望みをより強大にするだろう。

まさしく、その来るべき望み、光の源泉、基礎となる泉とはイーマーンである。

### 二番目の望み

年をとったある秋の日の夕方、私は高い山の上から下界を眺めた。その時、何ともいえぬ哀れと悲しみに溢れた不安が私を襲った。つと考えると、私は年をとり、太陽も年をとったようだ。年月も年をとり、世界さえも年老いた。年をとり、この世からの別れ、愛しい者達から別れの時が近づいてきたので、この老いの念は私を動揺させた。すると突然、アッラーの永遠の恩恵が開かれ、その哀れな不安や別れの念を、確固たる希望と輝く慰安の光に一変させた。

さよう、嗚呼、私のようなご老人たちよ、

クルアーンの中に100回以上も記された仁慈あまねく慈悲深き御方(アルラフマーニルラヒーム)という属性でご自身を私達にお現しになり、いつでも地上で恩恵を望み生きる者達へ無限の救いを御与えになり、幽玄の世界から毎年春を齎し、限りないめぐみと贈り物で満ちし、必要な糧をお届けになり、非力で全く無力な私達に恩恵を照射し、御示しになるハールキ ラヒーム(無限の恩恵を創造なさるアッラー)のめぐみこそが、この年老いた今、私達にとってもっとも大きな希望であり強力な光となりうる。

このめぐみを見出すこととは、イーマーンとともに仁慈あまねく御方に結びつき、彼との義務を果たし彼を崇拝し、従うことである。

3階のエレベーターの前にはもう4、5人のおじいさん、おばあさんが並んで待っていました。

「おはようございます」

「先生、きょうは早いんですね」

顔なじみのおばあさんがわたしに声をかける。わたしは教師でもないし、看護婦さんでもないし、ただのパートです。介護のパート職員です。

わたしの仕事は、朝7時から始まります。3階、4階の入所者さんたちをエレベーターで2階の食堂まで移動させます。おじいさん、おばあさんたちのことを、ここでは入所者さんと呼んでいます。食堂へ降りたおばあさんたちは、それぞれ所定の場所につきます。テーブルの端に名前がつけられていて、その前に座るのですが、入所者さんたちは、名札をつけていないので、最初の仕事はおばあさんたちの名前を覚えることから始まりました。

何人かの方が、自分で食べられるのですが、ほとんどの方が何らかのお手伝いをしなければ自分で食べることはできません。7時半ごろからの食事タイムで、割り当てられた入所者さんについて、食事介助をします。

「今朝のおかずは何なの？」

何人かのおばあさんにこう聞かれることが多いです。その人たちには、刻み食が出されていて、それぞれの色はカラフルできれいなのですが、それが何だったのか、見るだけではわかりません。食べてみてもよくわからない人が多いのですが。わたしは、普通に盛られている人たちのお盆の中をのぞいて、その色とすりつぶされた形から料理の名前より、食材の名前を教えてあげることが多いです。

「かぼちゃか？」子どものような言い方でおばあさんが、すりつぶされたかぼちゃにスプーンを運びます。

「わたしのお皿に、お魚がのってなかった」とか「みんなと同じものが食べたい」とか、さまざまな意見を聞き流しながら、朝食が終わります。

食べ終わった人から順番にエレベーターに乗ってそれぞれ3階、4階のフロアに戻ります。わたしは3階の担当になっているので、皆さんの膳を下げて、テーブルを拭いて、3階の詰め所の前に戻ります。

大柄なおばあちゃんが、中にいる職員さんから、タバコをどってもらい、おいしそうに一服吸っています。タバコの本数は、一人一日3本と決められていて、ノートに名前と時間を書くようになっています。

8時ごろから、朝礼があります。

「朝礼が始まります。入所者さんは詰め所の前に集まってください。」職員さんの放送があり、ほとんどの入所者さんが詰め所の前の少し広がったスペースに集まってきました。きょうは私の当番の日です。

「みなさん、おはようございます。きょうは4月20日、木曜日です。きょうは、<sup>いい</sup>通信記念日です。通信という言葉をみなさんにご存じですよ。」

「郵便局や」

「郵便の日や」

「前島密や」入所者さんたちの反応は、すばやく次から次へと答えが返ってきます。



「そうです。きょうは郵便の記念日です。みなさんも、ご家族の方に、手紙を書きましょう。お孫さんでも、甥っ子さんでも、大切な家族の人たちに手紙を書いて、みなさんががんばってリハビリに励んでいることをお知らせしましょう。」

一生懸命話を聞いてくれるおじいさんがいれば、後ろの方で、車いすに座ってうつらうつらしているおばあさん、おじいさんとおばあさんが仲良く話し込んでいるカップルもあります。

「みなさん、きょうは4月20日、何の歌を歌いましょうか？」

「島倉千代子！」いつものおばあさんが、また島倉千代子のリクエストです。

「春の歌で何かいい歌はないですか？」

「隅田川はどうですか？」おとなしそうなおじい

さんが、手を挙げて言ってくれました。

「隅田川を歌いましょうか」

「はるのうららの隅田川・・・」私が歌い出すとみなさんがそれぞれに口ずさんでくれました。何人かの入所者さんは、山の方をみながら、口を動かし、何人かの入所者さんは歌詞を忘れたのか、黙って聞いています。

「みなさんお好きな歌のようですので、この次は歌詞を書いておきますので、みなさんで歌いましょう。それでは、ラジオ体操をしてから、解散します。」

みなさん、一生懸命に動かすことができるところを動かしながらラジオ体操をがんばります。

こうして私のつとめている老人保健施設の一日が始まります。



両親が離婚してから私は父親のいない家庭に育ちました。父親のいない家庭というものに慣れるには時間はかかりませんでした。学校へ出す書類に父親のかわりに母親の名前を書くことには抵抗がありましたが、それでも私の仲のよい友達には両親が離婚している人や、複雑な家庭環境である人がいたので深く悩むこともなく思春期を過ごしました。

母親の覚悟がしっかりしていたこともあって、両親が離婚したからといってなんの不自由もなく生活することができました。それでも両親が離婚した頃はそのことが特に仲のよい友達でない他の友達には分からないように気を使っていました。

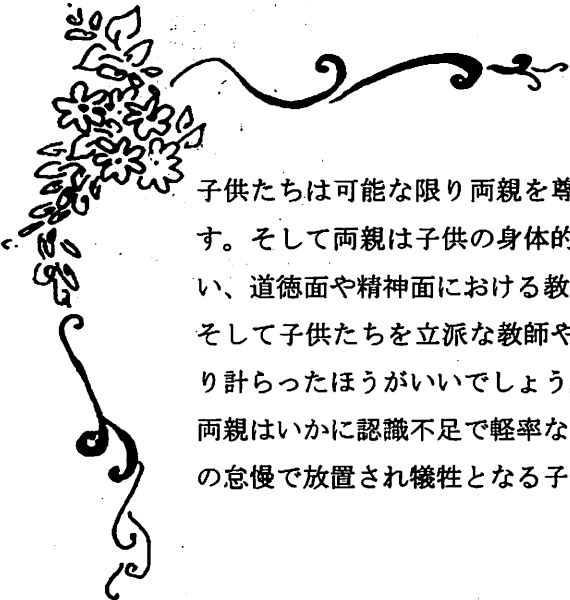
父親なしの家庭とはどんなものだろうと考えるとあまり想像が付きません。すでに両親が離婚した時の私の年齢よりも私は今二倍以上の年月を過ごしていますから、今ここにきて両親が離婚してなかったらどんな家庭だっただろうと振り返ることもほとんどありません。自分が現実的だからなのか、あきらめが先にきたのか分かりませんがとにかく両親の離婚ということが原因で暗くふさぎ込んだりまた反対に羽目をはずしたりした記憶がありません。むしろ若いながらにどっしり構えてその現実を見ていたように思います。

「離婚」という言葉は今となっては聞きなれた言葉となっています。バツイチ、バツ二なんていう言葉もよく耳にします。「離婚」というマイナスだったイメージは今、むしろプラスに受けとる人もたくさん見られます。自分の両親が離婚してそれを冷静に受け止めた私でしたが、決して奨励される行為だとは思いません。家庭へのダメージを認めたくないのか、強気でいたいためか、私の無意識な部分では様々なことが言えるかもしれませんが、とにかく両親の離婚ということで自分が深くショックをうけたという感情さえ、母親が離婚するという話を私に初めてした時以来なかったようにさえ思えます。それでも「ゆるされたことの中で一番避けるべき行為」とハディースで言われるように、離婚によるダメージは家庭にとって大きなものであると確信しています。

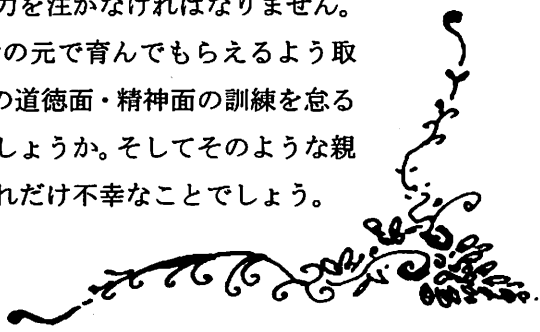
もうすぐ知り合って二年になる友達と話していた時に私の両親が離婚していることを会話のなかでなんとなく話すと、泣き出してしまいました。その涙をみて私は驚いてしまい、彼女がどうして泣き出したのか理解するのに時間がかかりました。彼女は私が心配で泣いてしまったと聞いていましたが、まさか私の両親が離婚していたとは知らずに突然そのことを知って泣き出してしまったのでしょうか。その時わたしは思いました。「離婚」なんてありふれたことのようになってしまっている今日で私の心も麻痺していたのかな・・・と。父親は近くに住んでいるので時々会いに行っていますし、父親に会いに行くことに決して母親は口をだしたりはしません。そんな関係が保たれているせいかもしれないが私もとくに不満はなくこれまで過ごしてきました。父親がいる家庭であつたら、そしてもちろん両親の関係がうまくいっている状態であればもっとあたたかく明るい家庭だったと思います。

家庭には様々なかたちがありますが、両親のお互いの関係は本当に大きく影響すると思います。母親や父親の姿を子供はいつも見えています。そしてデリケートな心でそれを捉えています。母親や父親の感情は家庭にも影響します。家庭の基礎は夫婦関係であるように、夫婦関係がうまくいっていなければ家庭もうまくいかなくなります。

人間はその状況になれようと自分を変化させようとしませんが、そうやって私も父親のいない家庭で自分を変化させてきたのかもしれませんが、もっと力を抜いて生活することができたかもしれません。「両親の離婚があっても何ともない、ダメージは特に受けているように思わない」と生活をしてきましたが、そう言っていることが一番のダメージの表れなのかもしれません。



子供たちは可能な限り両親を尊重し、両親の言うことに従うべきです。そして両親は子供の身体的発達や健康に留意するのと同じくらい、道徳面や精神面における教育にも力を注がなければなりません。そして子供たちを立派な教師や指導者の元で育ててもらえるよう取り計らったほうがいいでしょう。子供の道徳面・精神面の訓練を怠る両親はいかに認識不足で軽率なことでしょうか。そしてそのような親の怠慢で放置され犠牲となる子供はどれだけ不幸なことでしょう。





6月は祝日も無く、イベント性に乏しい月です。そんな6月に設定されたのが「父の日」です。私はてっきり商業ベースで出てきたもので、母の日のついでのような少し寂しい日だと思っていたのですが、どうやらこの日にも成り立ちにまつわる話があるようです。今月は、映画を離れて「父の日」と父について考えてみました。

1908年にアメリカで始まった母の日、それを知ったジョン・ブルース・ドットという女性が1909年に「母の日があつて父の日が無いのはおかしい、父の日も作ってください」と牧師協会へ嘆願したのがはじまりだそうです。彼女の父は南北戦争の際の北軍の軍曹で、彼が戦争に行っている間母親が女手一つで働きながら一家を支えてきました。その疲労のため、戦争の終わった1865年には母親は体を壊し父親の復員後すぐに亡くなってしまいました。

残された子供は6人(男5人女1人)。今度は父親が男手一つで子供を育てていきました。彼は再婚もせず、生涯独身で働き通したそうです。それに感謝をしたドットさんが、「母だけでなく父に感謝する日も必要である」と強く願ったと言う事でした。彼女の提唱した「父の日」はだんだんと各地に広がり、1916年にはアメリカ全土で行われるようになってきました。1926年にはナショナル・ファーザーズ・デイ・コミッティがニューヨークで組織され、ついに1972年にはアメリカでは「父の日」が国民の祝日になりました…。

と、というのが父の日の成り立ちだそうです。もちろんこの日一日だけでなく、親に対してはいつも感謝する事が重要ですが、なかなかそううまくいかない家族関係もあります。

私の母は、近所のお母様方が子供に対して「お父さんのような人になっちゃ駄目よ、もっと立派になりなさい」といっているのをよく見たそうです。それを見て、母は「絶対に主人の悪口は子供に言うまい、子供が父を尊敬しなくなってしまう。そうなったら家族としてやっていけない」と、感じたそうです。そのためか、私はいつも母から父はとつてもいい人である、父と結婚して本当によかったということばかり聞いてきました。



ですが、決して夫婦仲がいつも良かったわけではなく、激しい夫婦喧嘩が繰り返されたこともあり、父は母から食器を投げつけられたり飼い猫を投げられたりしていました。その様子を恐る恐る見ていた私にも、父はいつも落ち着いていて冷静で、淡々と母をなだめているのがわかりました(この父の冷静さが、より母を逆上させるのですが…)。そんな、どんな時でも説得力のある話の出来る父の事が私は大好きでした。何でも食べ、何でも知っていて明るく前向きで何事にも熱心な父は、時に生真面目すぎて嫌になることもあり、私が大きくなってからは私に対して

もいつも丁寧語で話すので、ちょっと近寄りたいたい感じもしていたのですが、最近、実は父も昔からそう完璧ではなく、そう落ち着いてもいなく、嫌いな食べ物もあるのだ、ということを知り、当たり前ですが、なんだかちょっと安心しました。

父は今も元気ですが、私の目には随分と歳をとったなあと映ることも多くあります。なんだか仕事が嫌になったりもするようで、そんな姿を見ると、仕事熱心だった頃を知っているのでもっと寂しくなってしまいます。ですが、私が父に対して持っている信頼感や尊敬の念はずっと変わることがありません。それは、母の「子供には父の事を絶対に悪く言わない」というポリシーに子供の頃から触れてきた事と、母が不満はあったとしても父に対して常に持っていた尊敬の念のなせる業だと、私は思っています。

世の中には色々な家族・夫婦がいて、色々な我慢をしている人もいるとは思いますが、「お父さんみたいになっちゃ駄目」とか「お父さんみたいな人とだけは結婚しないように」と言い聞かせるような夫婦関係・家族関係にはなってほしくないと思います。

さて、「父の日」は日本では1950年ごろから広まり始め、一般的になったのは1980年代だそうです。とはいえ、「母の日」のおまけ的な印象が強く、なんだかあまり重視されない日ですが、この機会に一度、「お父さん」を見つめなおしてみるのもよいのかもしれない。子供にその父親の愚痴を言う人はいくらでも少し控えみてはいかがでしょうか。





6月のテーマは「お父さん」です。

Q：お父さんって、どんな存在ですか？

A：遠い存在。厳しい人。躾をする人。

●「お父さん」って自分にとってどんな存在？生まれた時から「お父さん」は「お父さん」で、

お父さんにも子供時代があり、思春期。青春。初恋。見合い。結婚。とプライベートがあったことを知らない。

親は何時までも存在していると思っていた。ある時父の入れ歯を見て、凄いいショックを受けた。私が成長しているのだから、もちろん親も年老いて行く。なのに、友達の親が亡くなっても、自分の親も何時か召される事に、何故か気付かなかった。

●結婚する前は、父の学生時代の話聞いても何処か異次元の話聞いているような気がしたのに、自分が結婚して初めて両親の結婚の馴れ初めを聞いたり、両親を早く亡くして、兄弟に育てられた父の「親の愛情を知らないで育った」という言葉に父の長年の悲しみ、寂しさを感じた。

●自分は母親になる為にとっても不安で色々本を読んだりして勉強したのに、夫はいつの間にか気付いたら「お父さん」になっていて、自分の子供もいずれ親になるのだと思うととても不思議な感じがする。

●男の子が生まれた時、「この子がお嫁さんをもろうなんて考えたくない」と友人が言っていた。きっと女の子が生まれた時の男親は「いつかお嫁さんになっちゃうのか。。。」「って思って既に寂しさを感じているのかもしれない。

そう、もちろん「お父さん」も突然「お父さん」になっていたわけではないのです。イタズラもしただろうし、解らない事を解決できたら喜び、失敗もしたはずですが、でも、もしかしたら、私達の心のどこかに既にお父さんのイメージを作り上げていて、イメージと違うところは見ないようにしていたのかもしれない。

皆さんにとって「お父さん」ってどんな存在なのでしょう？



## 汝自身を知れ\*

自己自身を知ると言う事はただ体の諸器官、欲望、怒りや憤慨、能力等々を知ることではない。また、体と魂(心)で体系的に、神へのこまやかな感情や意識、感覚、意欲等を知ることだけではない。自己自身を知ると言うことはこれらと共に、さらに毎日、自分自身を違った角度から新たに学ぶこと、そして、常に自分自身を新しく認識しなおすことである。なぜなら、人間は一枚の写真のように、一つの角度から確定されるものでもなければ確定する事もできない。それはちょうど、育ちつつある一本の木のように、一瞬一瞬新しい形をつくり、変化していく。同様に、自分自身の魂もそれぞれの理解力や意識とにおいて、さまざまな角度から、自分自身と関連する事柄を観察し解釈する事が必要となる。(たとえば)「今日是否定的なよくない出来事が私の身に起こったが、原因は多分この私の間違いからだと思う。または、ある行動によって、このようなアッラーのめぐみに到達した。それが私にふさわしくなくても、真理なるお方のご承諾にかなっているため、可能となった。」というように考えながら、いつでも、自分自身にレンズを当てて見る必要がある。が、ここで、ある点に留意しておかなくてはならない。それは、あなた方がいろいろと考えたときにも、(この瞬間の)私の言葉は上述したように、1つの角度から捉えられたものであり、この状態は刻々と変化し、一秒前、一秒後は違ってくるということである。

人はこの方向へ近づくなら、その本質を守りぬくことができる。アッラーの御力と御意と御望みそして彼の御知識との関連において自己をとらえることができる。さよう、人というものは常に変化し、常に違った形で表れる大変複雑な本のようなものである。そのため、それを常に読みつづける必要に迫られる。

クルアーンにはこれまで述べてきた事象と明らかに矛盾しているように見られる一節がある。「ワラータクヌー カッラズィーナ ナスツールハ ファアンサーフム アンフサフム：あなたがたは、アッラーを忘れた者のようであってはならない。かれは、かれら自身の魂を忘れさせたのである。(59章 19節)」注意してみるなら、この節では「アッラーを忘れた者」とまず始めに仰せられる。それから、こうする者たちに、彼ら自身の魂を忘れさせる事を1つの罰として与えたと、その後が続ける。そうであるなら、このように申し上げられよう。「自己自身を知る者はアッラーを知る。しかし、アッラーを忘れる者に

\*昔々ユーフラテス川のほとりに、民衆から慕われたスルタンがおりました。壊れたつぼで水を汲み、愛するスルタンに捧げた人がおりました。もともと水源そのものがスルタンの所有だったのですが、このこわれた壺では、なかなか水をすくい上げることができません。それでも、一生懸命水を汲もうとした貧しい人のお話が伝えられています。

「こわれた壺」はその話に因んでいます。M.F.ギュレン師が語っている言葉を文字にした文章の訳です。(HPからの転載)

アッラーは忘れる者自身を忘れさせる。」以上のように、この点での矛盾は起こらない。

であるとすれば、アッラーを忘れず、あらゆることをアッラーに結びつけた時、自己自身は一冊の本のような形となるであろう。23の言葉(“The Words”, サイド ヌルスィ)を思い出してみよう。先人が「イーマーン(信仰)は一種の光である」と述べられた。さよう、信仰が明らかに顕れる時、(光によって)宇宙のすべてを読みとる可能性が生じ、客観的世界と主体的自己をより深く違った角度から学ぶことが可能となる。客観的世界を学び、熟慮する時に、主体的自己は一つのルーベまたはレンズの役割を果たす。この点から、アッラーの存在をまず始めに認識し受け入れる事、そしてアッラーへのイーマーン(信仰)を持つことは大変重要である。これを受け入れる事によって、あなた方は、主体としても客体としても自由に行き交うことができる。すべてのことを一冊の本のように読み、展示品のように眺めることだろう。逆に、事象をアッラーに帰さない場合、すべての事は暗黒へと埋葬される。23の言葉で述べられているように「ある橋の上、暗闇の中であたりは遺体だらけ、野獣たちに取り囲まれている状況下でも、ひとたび一切をアッラーへの信仰に帰し、彼を感じるなら、まるで電気のスイッチに触れたように、怖がっていた今までの状態が瞬時に一変する。つまり、まず始めにアッラーを知ることは人間の主体的自己と客体的自己をより深く理解するために大いなる助けとなりえ、重要だということである。

今、もし、私がアッラーを信じるならそれら受け入れていると言う事であり、私、私の行動、私が今日なした事、私が明日行なうこと、そして私の臨終、さらに審判の日に私に起こる事こと等あらゆる事は彼の御知識の範囲内に修められている。「ワ ラー ユヒートゥーナ ビ シャイイン ミン イルミヒー (かれの御意に合ったことの外、かれらはかれの御知識に就いて、何も会得するところはないのである。)」あなた方は彼の知識以外にはなにも取り囲むことができない。なぜなら彼はすべてを取り囲む(ムヒート)お方であられ、ムヒートはムハート(取り囲まれる者)にはなれない。もしあなたが彼の御知識を取り囲んだと言うのであれば、取り囲む者(ムヒート)が、取り囲まれる者(ムハート)であるとなり、これは存在させ給うお方の御名において不可能である。

このように熟慮し、事象を捉えなおすと、お茶を飲むというような簡単な行動においても、彼の御望みと御意にかなうことなしに、何もなしえないと理解できる。

さらにここには、一種の循環(サイクル)があるように見える。つまり、一方で、私達自身を学び、自己と言うレンズで存在そのものを眺めると、巨大なリンクした形として、アッラーの存在、アッラーの唯一性の証拠や証言者の存在を見出す。他方、その証言者達の忠実なる証言、事象の説明は、アッラーを信じるということに関連してくる事が見出させる。神の知(信仰の知)ではこれを循環と呼ぶ。つまり、一定の方向に、AがBの原因となり、同時にBがAの原因となるということである。「どちらが先に生まれたか？



卵が先か、雌鳥が先か？」など他の例もあげられる。基本的には、神学者たちはこの循環の問題を廃したようだ。しかし、ここには、ある一定の方向に一種の循環が起こっている。AがBを支え、BがAを支えている。あなた方の熱意ある努力とあなた方の学ぶという決意がアッラーを心で知る<sup>\*</sup>（マアリフェト）という真知を増大させる。さらに、アッラーをよりよく知ることは、あなた方が、あなた方自身をより明確に理解する事へとつながる。そして宿命についてもよりよく知り、あなた方を襲う災難の意味もより深く理解するようになり、恩寵もより細やかに感じられるようになる。さらに、最も大切な事「アッラーへの感謝」の気持ちがわきあがり、とどまることなく、あふれ出るであろう。悪害として、あなた方の前に現れる出来事に対しても、より良い方法で解釈をする事が可能になる。聖メヴラーナが述べられたように、「災難は、ぼろぼろの衣服を身に纏いあなた方のところへやってきます。そのふるまいはその身体にふさわしく、美しく見えます。なぜあなた方はぼろぼろの衣服に注目するのでしょうか？なかのふるまいや身体をごらんになればよろしいのに、」と。このような角度から出来事を捉える事も可能である。

さよう、主体的に、客体的に両面から学ぶ事によって、人間は自己自身を知ることができるという意味であり、基本的には、これはアッラーを知る一つの方法でもある。アインシュタインの予感どおり、遙か遙か彼方まで開かれているのだ。遠大に開かれうる者達は、狭い環境においても、さまざまな判断力で、現在の方法を乗り越え、それぞれの人生の記録により、本質を知り得る。それぞれの人生の記録とは、人の態度、行動、振る舞い、信仰、価値観、解釈、見方、変換等すべてを含む。このように、人生の記録によって、人間はそれぞれ一枚の絵画を織り成す。心眼を真実に向け、注視すると、遙か深遠なるもの、もう一つの世界、天国地獄、そして、アルシュ（天の一番高いところ）にイスラーフィールドの偉大な像が見えてくる。

さよう、人はそれぞれの能力に応じて(アッラーのみがご存知であられるが)これらすべてを見る事が可能となる。

## 物事のうしろに秘められたもの

哲学者たちはいう。「外の世界は私たちが眼にしているようなものではない。私たちが見ていると思いい込んでいいるものは、私たちの知性における認識の産物である。」イスラーム神秘主義的意味において、物事の背後と私たちがよんでいるものは、これとは異なる。私たちにおいては、物事という事実、存在は揺らぐことがない、というのが原則である。さらには、例えば、私がある木の絵を求めたなら、あなた方は

---

<sup>\*</sup>マアリフェトは「しもべが何時もアッラーのお与えになった恵みに感謝し、無力である事を知り、若く強い時にも本当は弱い存在であると知ること」により手に入れられる。真のマアリフェトとは、アッラーを心から愛し、想うこと、アッラー以外のすべてから望みを絶つ事である。

この世で最も大切な事はマアリフェト（アッラーをよく知ること）である。

あなた方が見たところを描写するだろう。しかし木は、それだけでできているのではない。木には、目には見えないところがあり、それは環境体系における役割、酸素と二酸化炭素のやり取りや呼吸活動などである。そのため、生物学者は、他の人々が見るよりも深く、異なる事項を木に見出す。なぜなら彼はそのテーマにおいて専門性を持っているからである。同様に、何らかのテーマにおいて専門性を持っている人々は、物事や出来事の表面から、その背後の部分を見ることができる。例えば一本の木を見て、そこにアツラーの御名と特性が明らかに顕示されているのを見ることができる。

物事の表面に見えるものは、客観的なものでもない。つまり、人々が皆同じものを見るわけではない。例えば、先に述べたような例で、木において生物学者は異なるものを見出し、物理学者も異なるものを見出し、大工もまた異なるものを見出す。さらに、彼らもまた、彼ら自身の中で、その深さに応じて、異なる段階に区別される。こういった状態は、目に見えるものが違っていること、あるいは不一致であることを示しはしない。見ている者の差異が、こういった差異を生み出しているのである。





小学校一年生の時からの友人に、耳の聞こえにくい人がいました。その、Sちゃんと話す時は、「キュードスピーチ」という手段を使っていました。キュードスピーチ：略してキュードとは、口の形を読みとって話すことを基本とした、「口話法」という意思疎通方法の導入時期のために作られたものです。手話とはまた別のもので、手と口の形、両方を使うことが特徴です。手話は、言ってみれば言葉のかたまりごとに表わしますが、キュードは一文字ずつ表わします。かといって、一文字ずつに固有の形のある「指文字」ともまた別のもので、手の形や位置で子音を、口の形で母音を表わします。キュードの手の形や位置、動作は、発音のポイントを象ったものなので、「発音誘導サイン」とも呼ばれます。

\*ここで話をしているのは、音声日本語に基づいた話です。よく、手話や点字の話をする時、「世界共通じゃないの？」ときかれることがあります。音声言語または墨字と同じように、手話や点字も世界中でそれぞれ違います。もちろん、方言もあります。(音声)日本語対応手話と、日本手話もまた違います。\*

以上のようなことは、大学に行ってから知りました。小学生の時は、「これを使えばSちゃんと話ができる」という感覚で受け止めていました。残念ながら、クラスメートの間で、このキュードが使えようになっただのは数人しかいませんでした。あるいは、Sちゃんとの意思疎通の手段としては使わず、悪口などに使う程度だったのです。小学生の頃の私にとって、それはとても悔しく、悲しいことでした。そして、キュードさえ使えれば後は何の問題も無いのかというと、全然そうではありませんでした。

ある日、Sちゃんが、私の鉛筆を見て、「かじったの？」ときいてきました。先の方にかじったような跡があったからです。私は、「ちがうよ、鉛筆削り」と言った後、家にあった鉛筆削りの様子をジェスチャーで表現しました。ところが、Sちゃんは、「鉛筆削りといえばこういうものでしょ？」という感じで、ジェスチャーをしてきました。私は、鉛筆を金具に挟み、取っ手をぐるぐる回して削るタイプの鉛筆削りを、Sちゃんは、穴に押し込んで回すタイプの鉛筆削りを、それぞれ表わして

いたのです。Sちゃんの表わすタイプの鉛筆削りでは、確かに、跡がつくはずがありません。その後しばらく、お互いに必死で分かり合おうとしましたが、ついに二人ともあきらめました。

このように、誤解や、相手に自分の言いたいことが伝わらないこと、相手の言うことが理解できないこと、もどかしさやイライラ、悔しさを感じるものがたくさんありました。

楽しいことももちろんありました。キュードの良いところは、音を立てないでおしゃべりができることです。時々、これはいけないことですが、朝礼などのとき、Sちゃんとコソコソ話で盛り上がることもありました。音が無いので、コソコソもありません。それに、離れていても意思疎通できるというのが魅力でした。相手が自分の方に向いていないと(見ていないと)成立しませんが、遠くの音のように聞き間違いをするということはほとんど無かったように思います。

お互い成長するにつれ、だんだん、分かり合えなくて苦勞するということが減ってきました。あれだけ徹底的に話し合ったためか、話をしなくても分かる友だち関係になったのかも知れません。私がすぐつらいことがあった時、Sちゃんが何も言わずに、何もきかずに、慰めてくれたりした思い出があります。

中学卒業後、Sちゃんとは学校が分かれ、あまり会わなくなりました。夏祭りで再会した時、私は別の友人とともにいたので、Sちゃんとの間に入り、キュードで通訳をしました。通訳は慣れたものでした。小学校で、同じクラスだったときは、授業中先生が話すことをSちゃんに同時通訳していたからです。

またある日は、バス停で再会しました。その時Sちゃんは、キュードではなく、手話をペラペラに使いこなして、また自信にあふれている感じで、落ち着いた、静かな微笑みをたたえていました。私が、「キュード、おぼえてる？」ときくと、「もちろん、おぼえてるよ！」と嬉しそうに話しました。私は、思い出が詰まったキュードを、Sちゃんがあまり使わなくなったことを少しだけさびしく思いましたが、それよりも、確かな表現手段を

得て楽しそうにしている彼女をみて、とても嬉しくなりました。

大学に入り、教育実習の季節になって、キュードや指文字、手話の使用経験が生かされることがありました。小学校実習では、国語の単元に合わせて、自分の小学生の時の思い出を話しました。実習の報告では、こんなことを書きました。一部をご紹介します。

\*\*\*

4年生の国語の教材「手話との出会い」と関連して、私自身の手話との出会いを話し、手話についての授業をすることになりました。

小学校の頃から、Sちゃんという友だちがいたこと。そして、学校で手話を習って（本当は、当時は「キュードスピーチ」を基本に使って、手話は補助的だったが、ややこしいのでその話はしませんでした）、一生懸命おぼえて、そしてようやくヒロちゃんと同じ合えるようになったこと。言いたいことが相手に伝わらない、相手の言うことを理解することが出来ない、もどかしさや、イライラ、くやしさを感じたこと。そんな中で、せっかくの手話を悪口や自慢に使ったりするだけの人もいたこと、それが、小学生の頃の私にとって、すごく悔しかったことなどを話しました。1組でも2組でも、みんな表情が真剣なまま固まって、じっとこちらを見て聞いてくれました。

その話をした後、「みんなの手話」で紹介されていた、「指文字あいうえお」という楽しい歌を使って、まずは

指文字の練習から始めました。その後は時間を見つけて少しずつ進み、最終的にはみんなが、手話で自己紹介と、「ヒロシマの有る国で」の歌を手話つきで歌えるようになりました。

「先生が、手話は大切な言葉だから、悪口に使ってはいけないと言っていたことがよく分かった。ぼくたちは約束を守ります」という、ある「ふりかえり」の言葉が印象的でした。

\*\*\*

また、ろう学校実習では、その学校がキュードを使う学校だったため、キュードに関しては苦勞をせずに済みました。また、右手、左手の両方で使えるというのも便利なことでした。どちらかという手話の語彙数が少なく困ることもありましたが、キュードを交えて質問して、子どもから教えてもらうこともありました。

今、職場で一人、難聴のある同僚がいて、その人もキュードが分かるので、時々使っています。その人は口の形を読み取る力がすごいので、子どもたちとは口話でやりとりをしています。また、それ以外では今はもっぱら手話を使うようですが、やはりSちゃんと同じく、キュードもおぼえているので、私もキュードと手話を交えながら話しかけることができます。

手話法、口話法とともに、賛否両論を抱えるキュードですが、私にとっては、悲喜こもごもの詰まった、いつまでもおぼえておきたい大切な言葉です。

購読価格（郵送料込み）バックナンバーは、1部 200円（日本以外は1部 250円）

国内： 1ヶ月 250円、 6ヶ月 1300円、 1年 2500円

国外： 1ヶ月 300円、 6ヶ月 1600円、 1年 3000円

郵便振替口座番号： 00140-4-574489 口座名義： Yasuragi

三井住友銀行 店番号：005（春日部） 口座番号：7315959 口座名義：Yasuragi  
皆様のご意見、ご感想、ご質問をこちらのコーナーまで心よりお待ちしております

<http://www.yasuragiweb.com> [info@yasuragiweb.com](mailto:info@yasuragiweb.com) [yasuragi\\_nihon@hotmail.com](mailto:yasuragi_nihon@hotmail.com)

〒168-0074 東京都杉並区上高井戸 3-10-6, 404

「やすらぎ」編集部